

# 清流だより

令和5年10月2日(月)

北西中学校だより 発行 山縣 裕二



学校教育目標

「心豊かで かしこく  
たくましい生徒の育成」

## 全国学力・学習状況調査の結果について

### I はじめに

本年4月に全国の中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」に本校も参加しました。今年度は「国語」「数学」「英語」の3教科が調査対象となり、「学習状況調査」を併せて実施されました。このたび、本校の分析結果がまとまりましたのでその概要をお知らせいたします。また、調査結果の分析をもとに課題点や改善点等について職員間で共通理解を図り、すべての生徒に確かな学力を育むことができるよう、引き続き授業改善等に取り組んでまいります。

### II 本校の状況(平均正答率で見た本校の状況)

	国語	数学	英語
全国平均との比較	◎	○	○
山梨県平均との比較	◎	○	○

◎:「上回っている」 ○:「同程度である」 △:「努力を要する」

本校の結果は、国語は、全国平均・県平均を上回る結果でした。数学・英語は、全国・県平均を下回る結果でしたが、いずれの科目も県平均との差は3割以内で、大きな差は見られませんでした。

### III 国語・数学・英語・生徒質問紙の状況

#### ①国語

##### ◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(15問中3問)

- ・インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する。
- ・レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。
- ・現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。

##### △正答率が全国・県平均を大幅に下回った設問(15問中4問)

- ・「落胆する」の意味として適切なものを選択する。
- ・それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する。
- ・『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く。
- ・原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す。

##### ○その他

- ・「知識および技能」の「情報の扱いに関する事項」、「思考力、表現力、判断力」の「書くこと」「読むこと」についての平均正答率が全国・県の正答率を上回った。
- ・問題形式が選択式、短答式、記述式のうち、短答式については全国・県の平均正答率を下回った。

##### ◇今後の取り組み

- ・「文脈に即して漢字を正しく書くことができる。」については、今後も引き続き授業の中で指導し、語彙の習得と語感の育成に努めていく。また、家庭学習においても継続して取り組めるように指導を行っていく。
- ・正答率の低かった「事象や行為、心情を表す語句についての理解」については、普段から、辞書を引いて意味を確認したり、普段の生活の中でも(「生活学習ノート」「行事後などの作文」等)語彙を増やしていったりする指導を行っていきたい。

- ・全国・県平均よりは上回っていたが、正答率の低かった「自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書くことができる」については、授業において、まず、文章に書かれている内容を理解させ、次に自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げながら自分の考えを書いたり、発表したりする指導を行っていく。

## ②数学

### ◎正答率が全国・県平均を大幅に（5ポイント以上）上回った設問（15問中2問）

- ・-5, 0, 3, 4, 7, 9の中から自然数をすべて選ぶ。
- ・グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのか、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する。

### △正答率が全国・県平均を大幅に下回った設問（15問中3問）

- ・空間における平面が1つ決まる場合について、正しい記述を選ぶ。
- ・女子50m自由形の記録の最小の階級から29.00秒以上30.00未満の階級までの累積度数を求める。
- ・二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ。

### ○その他

- ・無回答率が全国・県平均より高かった。数学においても最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢を大切にしていきたい。
- ・全体的な傾向として、図形、データの活用の領域の正答率が低い。

### ◇今後の取組

- ・確率統計の学習については、小学6年生からの学習内容を振り返り、基本的な知識の復習から始め、応用的要素の問題に取り組むことを大切にしたい。
- ・生徒同士で教え合う活動を増やし、仲間に説明する力をつけることで、より生徒自身の力を向上できるような授業を仕組んでいく。
- ・授業やテスト、小テストにおいても記述して表現する場面を設定し、思考力・表現力の向上を図る。

## ③英語

### ◎正答率が全国・県平均を大幅に（約5ポイント以上）上回った設問（17問中2問）

- ・ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
- ・与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。

### △正答率が全国・県平均を大幅に下回った設問（17問中2問）

- ・図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する。
- ・ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。

### ○その他

- ・17問中9問、無回答率がゼロであった。英語では最後まであきらめずに回答している様子がうかがえる。
- ・本校でも「書くこと」の正答率が低かった。
- ・問題形式について、短答式は全国・県の平均正答率を上回っていたが、記述式は全国・県の正答率を下回っていた。

### ◇今後の取組

- ・書くこと、特に自分の考えを適切に書くことに対する苦手意識を改善するために現在行っているスモールトークの活動で話した内容を、適切な英語で書くことにつなげ、英文を書く機会を多く設定する。
- ・家庭学習として単語や文を書いて練習する取り組みを継続して行っているが、授業内でも反復練習の時間を設け、語彙力や文法力を高められるようにする。
- ・教科書や日常のニュース等において、その内容について自分の意見を持ち、簡単な英語で表現する活動を意図的に仕組んでいく。

#### ④生徒質問紙

##### ○生活習慣・自分自身について

- ・朝食摂取率については、91%の生徒がほぼ毎日朝食を摂取している。
- ・「ほぼ毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えた生徒は、県平均・全国平均より高い91%に対し「ほぼ毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた生徒は67%となっており、県平均・全国平均より下回っている。
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と答えた生徒は県平均より16%、全国平均より、24%ほど上回り、「ほぼ当てはまる」を含めると95%の生徒が認められていると回答している。
- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と答えた生徒は県平均より約4%、全国平均より16%上回り、「ほぼ当てはまる」を含めると、95%の生徒が教えてくれていると回答している。また「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた生徒は、県平均より7%、全国平均より11%上回っている。
- ・「友達関係に満足している」と答えた生徒は県平均より5%、全国平均より9%上回っており、「ほぼ当てはまる」を含めると95%の生徒が満足と答えている。
- ・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の質問に対し「よくある」と回答した生徒は、県平均・全国平均を上回っており、「ときどきある」を含めると約9割となっている。
- ・「自分には、よいところがある」「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」の質問で「当てはまる」と回答した生徒は、全国平均より3~7%高い。

##### ○学校生活について

- ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒は、全国平均より11%、県平均より4%上回っている。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した生徒は、全国平均より18%上回っている。
- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた生徒は全国平均より5%上回っている。

##### ○学校での学習について

- ・1, 2年生で受けた授業では、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒は、「ほぼ当てはまる」を含めると68%だった。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた生徒は、全国より13%、県平均より9%上回っている。
- ・「授業で学習したことは、将来、社会に出て役に立つと思う」と回答した生徒は、国語では、全国・県平均と同等、数学では全国・県平均よりともに7%上回っている。

##### ○家庭学習・読書習慣について

- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらい勉強をしているか（塾等含む）」について、「3時間以上勉強をしている」と回答した生徒が、約9%で、県平均と差はない。「1時間以上2時間より少ない」「30分以上1時間より少ない」がそれぞれ25%と最も割合が高い。
- ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらい勉強をしているか」について、「1時間以上2時間より少ない」「1時間より少ない」がそれぞれ29%と最も割合が高い。
- ・学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどのくらい読書をしているかについて、「全くしない」と回答した生徒が県平均より8%ほど多かった。
- ・あなたの家には、およそどのくらいの本がありますかについて、101冊から200冊と回答した生徒の割合が44%と最も高く、県・全国平均より10%以上、上回っている

- ・「新聞を読んでいますか」について、「週に1～3回以上読んでいる」と回答した生徒は、県平均より4%下回っており、「ほぼ毎日読んでいる」と回答した生徒はいなかった。

#### ○ICT機器活用について

- ・1, 2年生の時、受けた授業では、「コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したかについて」週3回以上と回答した生徒は、全国平均より14%、県より8%上回っている。
- ・「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した生徒は全国平均より4%上回り、「どちらかといえば、役に立つ」を含めると95%の生徒が役に立つと答えている。

## IV 総括

- ・本校の3年生は、「学力調査」において、国語は、全国平均・県平均を上回る結果でした。数学、英語は、全校・県平均を下回る結果でしたが、いずれの科目も県平均との差は3割以内で、大きな差はなく、県平均と同等の結果でした。
- ・「学習状況調査」においては、生活習慣が安定していて、規則正しい生活が確立できていることがわかりました。しかし、「ほぼ毎日、同じぐらいの時刻に寝ている」と答えた生徒は、県平均・全国平均より、下回っており改善の必要があります。
- ・人間関係については全体的に良好であり、それにより自己有用感や規範意識の高さに繋がっていると考えられます。
- ・学習面では、家庭学習はまだ定着していない状況にありますが、「学習意欲」や「学習の大切さの認識」が比較的高く、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」については全国平均・県平均と同等であることから、正答率をしっかりと分析して、成果と課題を明確にし、職員で共通理解を図り、授業の改善や指導の工夫を引き続きすすめて、より成果があがるよう努めていきます。
- ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合は、県平均・国平均を下回りました。将来の夢や目標を持つことは、学習意欲の向上につながります。本校では、授業や学校行事、職場体験学習、生徒会活動等、一層の工夫を通して、生き方教育の充実を図ってまいります。ご家庭においても、働く意義や将来の夢や目標について、お子さんと話される機会を適宜、設けていただきますようお願いいたします。
- ・学習面の充実につながる生活習慣として、「新聞を読むこと」、「読書をする事」があります。新聞や本の読書量と学力調査の結果には相関関係があるといわれています。本校の「新聞を読んでいる」「読書時間」についての割合は全国・県平均を下回っていました。学校においては朝読書等の指導の充実を図ってまいります。ご家庭においても、生活の中に親子で活字にふれる時間をとっていただきますようお願いいたします。
- ・学習意欲や学力の向上には、教師や生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気の中で、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが重要と考えられています。調査にある「先生はあなたのよいところを認めてくれている」「友達関係に満足していると答えた生徒が県平均・全国平均より上回っており、本校は非常によい人間関係の中で学校生活を送られていることがわかりました。さらにこの学びあう環境を維持向上させていき、学習の充実を努めてまいります。
- ・ICT機器の活用については、多くの生徒がICT機器を使うのは勉強の役に立つと考えており、引き続き、一人一台端末の有効活用に努めてまいります。反面、ケイタイ等の夜間の利用により、就寝時間が遅くなっている様子もうかがえます。ご家庭においても適切な使い方について、引き続きご指導をお願いいたします。

今後も生徒一人ひとりの状況やニーズを踏まえつつ、生徒の可能性を最大限に伸べる学びを支える教育環境づくりと、より一層生徒の心のケアに力を入れていきたいと思っております。家庭での学習時間の定着、自主的に学習に向かう環境づくりについては、生徒たちの実態に応じた指導の工夫と改善を取り入れ、ご家庭と連携した取組を継続していきたいと考えています。後一層のご理解とご協力をお願いいたします。